

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177200078		
法人名	環境開発株式会社		
事業所名	グループホームのぞみの家 カエデ館		
所在地	北海道赤平市宮下町3丁目1番地		
自己評価作成日	平成28年11月10日	評価結果市町村受理日	平成29年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0177200078-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0177200078-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 看護師を配置し、利用者様の状態により指示を仰いで介護又は受診すると共に、医療機関との連携を密に取っている。
2. 夏祭りや敬老会、クリスマス会などの行事には家族にも出席を募り、一緒に参加して頂いている。
3. 季節行事とし花見、焼き肉、紅葉観覧、日帰り旅行、一泊旅行など計画し行っている。
4. 同敷地内には、グループホーム2号館・3号館、デイサービス本館・2号館があり、合同行事などで交流を図っている。また、畑を作り利用者・職員で育て収穫の時期には収穫際を行っている。
5. 退居後も敬老会の記念品を届けるなどして、関わりを持っている。
6. 毎月御家族には写真付きの手紙を送り、日々の様子がわかりやすいよう工夫している。
7. 入院中の利用者様の洗濯支援をし、退居した場合でも必要に応じて継続して行っている。
8. 室内は広い空間と和室、暖炉形式のストーブを設置し癒しの場を提供できるよう工夫している。

母体法人は赤平、旭川、札幌と道内3市で高齢者福祉事業所を運営し、情報交換を綿密におこなって事例を共有しながら質の高いケアに努めている。当事業所はJR赤平駅から徒歩10分程度にあり、同じ敷地内にデイサービス2棟、グループホーム3棟の5つの事業所があり、同一法人ということで連携が取り易く行事を合同で行ったり、避難訓練を実施して非常時や災害時には協力体制がとられ相乗効果を上げている。職員は利用者寄り添うことで今までの生活の延長のように過ごす事ができるアットホームな環境をつくっている。利用者はカラオケやゲーム、焼肉など行事食を楽しみ、各事業所合同での一泊旅行や日帰り温泉等のレクリエーションで互いに交流し楽しんでいる。居間にはベチカがあり、天井が高く開放感があり、全体的に和む雰囲気を出している。また、居間には小和室があり、利用者のくつろげる場所を提供している。職員は地元出身者が多く、若い職員は介護福祉士資格取得に積極的で、事業所は勉強会や講習会の開催を支援、先輩職員は指導助言などをして職員の質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の尊厳を大切に、御家族様や地域の方々が訪問しやすいホーム作りを念頭におき7つの項目をフロアや事務所に貼り常に意識し日々実践に繋げている。	利用者の馴染みの関係や家族が来訪しやすい環境作り等7つの目標を掲げている理念は、居間や事務所の見やすい場所に提示され、朝のミーティング時に職員全員で復唱して共有しケアに繋げている。また、新人研修時には理念について説明して共有できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内のお祭りやイベントへの参加、近隣小学校の運動会や学習発表会の観覧や学生ボランティアの慰問などで交流を大切にしている。	豊里商興会に加入しており、地域でのイベントおよび町内のお祭りに参加している。4ヶ所のお寺から交代で来所し法話講演はじめ、近隣小学生が慰問のために訪問したり、学校の発表会や運動会への招待を受けたりと交流を深めている。また、近隣高校から職場体験を受け入れ、ボランティアで除雪もしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や商興会の集まりに参加し認知症の理解を深められるよう努力している。また運営推進会議の中で「のぞみの家本館」の活動報告をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様・町内会・地域包括センター・他施設の職員などに参加して頂き意見などを聞いてサービスの向上に活かしている。意見や評価を貰う事で会議内容を工夫し次回に繋げる努力をしている。会議については年6回行う計画を立てている。	町内会長・家族・民生委員・地域包括支援センター職員などが参加して、現在まで年6回開催できるように進めている。参加しやすい日時の調整や参加者への働きかけ方法、議題内容の見直しを行い、年間行事表に予め書き入れる等の工夫をしながら運営推進会議を進めている。	運営推進会議を年6回を目標に進めているが、事業所および管理者の会議開催の工夫を今まで以上にを行い、目標が確実に実現することができるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や認定調査などの件で日頃から連絡を密に取っている。また訪問時にはケア内容や取り組みを把握して頂き相談や意見交換など行っている。	包括センターで開催している月1回赤平市主催の地域ケア会議に出席し、日々の会議の中で内容を発表するようにしている。市職員の来所時には事業所の情報やケアの内容を報告しながら、相談してアドバイスをもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや会議などで常日頃から拘束を行う事でのどのような影響があるか話し合っている。また研修にも積極的に参加するよう努め、知識を習得する機会を作っている。居室ドアに鍵はなく可能な限り自由を尊重している。但し夜間は防犯対策とし施錠している。	身体拘束の研修会には年2回出席し、勉強会などで発表している。玄関は夜間のみ施錠している。日中は引き戸のベル音と職員の見守りをして無断外出を防止している。就寝時は家族の了承を得て利用者の転倒防止のための鈴を設置している。行動抑制などの言葉があれば都度注意をするように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にも参加し虐待の種類や起こる原因などを話し合い、認知症に対する理解・人としての理解を深めていけるよう随時話せる環境作りに努めている。また入浴時や更衣時には全身観察と状況の把握。気付いた点があれば注意し合ったり意見交換して。		

グループホームのぞみの家 カエデ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどで知識を習得する機会を作っている。必要があれば使用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前調査時に疑問や不安な点を聞き理解、納得して頂けるよう心掛けている。契約の時は書面や口頭で詳しく説明し、より良いサービス提供が始められるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からは訪問の際は意見や要望を聞けるよう関わりを持ち思いを十分に傾聴し、利用者様とご家族との関係も考慮しながら良好な関係作りに努めている。毎月日誌と意見や希望を記載できる用紙を送り意見・希望があつた場合は話し合い早急に対応している	利用者と日々の会話から意見や要望を聴いているほか、家族等からは来訪時や電話などで意見等を聴くように努めている。利用者の生活状況は、「お便り」で毎月家族へ報告している。要望があつた場合はスタッフ会議や日々のミーティングで迅速に対応するよう努めている。対応の結果はその都度家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や毎日のミーティング等で意見や提案を聞き運営に繁栄できるよう努めている。	1年に複数回管理者は職員と個別に面談するように努めており就業内容やプライベートまで幅広く相談を受けている。気付きなど実現できる物は直ちに実践するようにしており 内容により上司に届くようなシステムも構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績・勤務状況などを把握し、資格獲得者には手当を支給し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を増やし知識や技術を習得できるよう努めている。ホームでも学ぶ機会を作り情報提供は常に行い介護に向けての技術向上に繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者は、懇親会などで意見交換しサービスの向上に繋げている。職員にも他施設の職員と意見交換ができる場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査にて本人の状況を把握し、入居前にはホーム見学や訪問などで、本人が不安にならないよう思いや困っている事は何かをじっくり聞いて、安心感を持って頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の思いや、御家族様が現在抱えている不安や悩み、施設への要望など可能な限り理解し、共に考えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や御家族様等の要望に、柔軟な対応ができるよう事前調査の中で今までの経過、困っている事などの把握に努めている。必要に応じ他のサービス機関への連絡を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として尊厳を意識し家族の一員とし生活を共にし、利用者様が出来る事を見出し生き甲斐を持って頂けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況は、毎月手紙で報告し来館時には家族の希望や相談に応じ情報交換をしている。その中で利用者様がより安心して生活して頂けるよう信頼関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院へ行ったり、スーパーへの外出支援を行っている。ご家族様や知人、馴染みの方も来館しやすいように、開放感のある空間づくりをしている。	職員は利用者に行きつけの店での買い物に行っているほか、利用者家族等の協力を得て外出や外食、馴染みの美容室に行くなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないように努めている。また、遠方のご家族には宿泊室を利用できるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯たたみや食事作り、食器の片付けなどを通し、利用者様同士の関わりや協力し合う場を設けている。また両ユニットで集まりラジオ体操を行ったり、レクリエーションや施設内にあるカラオケ室を利用し交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も御家族様の状況を踏まえて面会や入院時の洗濯物などを支援している。また敬老会には記念品を届けるなどし関係を断ち切らないように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人がどうしたいのか?」という事を考えた支援を心掛け性格や生活歴・趣味など、その他家族や知人から得た情報を本人主体の支援や関わりが出来るよう努めている。	入居時の聴き取りやアセスメント表から利用者の生活歴を把握しているほか、日々の生活の中で会話や関わりから思いや意向を把握し、ユニット会議や申し送りノートで職員同士周知している。意思疎通が困難な利用者の場合は、表情や仕草などから判断したり、家族等から情報を得て共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の段階だけでなく継続的にその方を知る為、多くのコミュニケーションを図る事で情報収集をしている。また御家族様に話しを聞くなどし、より深く理解し安心して生活出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々を尊重し以前の生活リズムを崩さないよう状態を把握し本人の意志を確認しながら生活支援に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族様、全職員の意見を反映し、介護計画見直し会議でまとめそれぞれに合った計画書を作成している。同意書に要望記入覧もあり、意見や要望・希望を伝えやすいように配慮し同意書印を頂いている。	利用者・家族から意向を聞き、カンファレンスを開催し、課題とケアのあり方について話し合いケアプランを作成している。作成後は家族に説明し同意を得ている。職員は介護記録に日々の気づきや変化を記録し会議を開催している。3か月ごとにモニタリングを実施し、評価につなげている。状況変化時は現状にあったプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌には日々の様子や普段とは違う行動等も記録し、職員が情報交換しケアしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	精神や身体介護だけでなく、受診・外出の支援、入院中の洗濯や必要に応じて院内の食事介助も行い、その時々ニーズに対応し多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近郊小学校の招待を受け運動会や学習発表会に行ったり、消防に来て頂き避難訓練をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・御家族様の希望を聞き、入居前から通院していた医療機関を継続して受診できるよう支援している。心身の状態に合わせて、適切な医療を受けられるよう医療機関と看護師で連携をとっている。	医療機関の選択は本人、家族の意思を尊重して決めている。事業所の方針としては事業所職員が同行受診を行うことを基本としている。歯科医には往診してもらっている。協力医療機関は24時間体制の契約であり、インフルエンザの予防接種は事業所にて行っている。	

グループホームのぞみの家 カエデ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診前には状況の変化や相談したい内容をまとめ情報交換をしている。個人の受診ファイルがあり結果など記入し職員全員が共有できるようにしている。また適切な介護・受診が受けられるよう看護師と医療関係と連携取り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書と口頭で、生活状況や心身の状態を伝えている。入院中は定期的に面会に行き食事など身の回りのお世話をし、看護師職員との情報交換をし状況の把握に努め早期退院ができるよう御家族と経過説明を受けるなどし、今後の治療方針などについて検討・確認をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができるを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に関する指針」の同意を入居時に家御家族様から署名して頂いている。御家族様を交え掛かり付けの医師とも相談し、どうケアすべきか職員で話し合い、良い支援ができるよう取り組んでいる。	入居時には利用者が重度化した場合や終末期の対応に備えて、「重度化した場合における対応に関する指針」の同意を家族から確認印を得ている。利用者の食事や動作、体調に変化が見られた時には医師の見解を知らせて、家族の要望に沿う様に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防協力のもと救命講習を実践している。緊急マニュアルは常に身近に置き確認、対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実践している。火災の他に地震を想定した訓練も実践した事がある。火災時の地域との協力体制は、緊急マニュアルは等で確認し対応できるようにしている。	年2回火災に対する避難訓練を場所、時間帯など条件を変更して実践しており、消防署から講評を貰い運営推進会議で報告している。地震や災害時の対応マニュアルを作って、訓練で活用している。必要な備蓄も備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個人を尊重し、プライドやプライバシーに配慮しながら人生の先輩であることを忘れず適切な言葉づかいを心掛けている。	スタッフ会議等で不適切な言葉、態度など接客マナーとして会議に取り上げ、利用者の尊厳を守る様に努めている。また、言葉掛けは利用者の生活歴や個性を尊重して関わっており、同じ目線に立ちプライドを損ねないケアを心がけている。「お便り」等に利用者の写真掲載等のプライバシー、個人情報については入所時に家族に説明して確認印を貰っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えやすい関係作りを心がけている。意思表示が困難な利用者様は、表情・仕草などから読みとれるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中、何気ない仕草や言葉を見逃さないよう注意し利用者様がどうしたいのかを考え一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている。希望や要望には可能な限り応えられるように努力している。		

グループホームのぞみの家 カエデ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々身だしなみには気をつけ、その人らしさを失わないように心掛けている。好きな服を選んで着て頂くなど自己選択ができるよう支援している。出掛ける時には化粧をして頂いたり、馴染みの美容院も利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中で1人ひとりの嗜好を把握し、利用者様と協力しながら調理や片付け等をしている。また、献立は偏らないよう気を付けている。	事業所の方針として食事は大きな楽しみと捉えており、日常の食事はじめ、旬の食材、季節行事食、誕生日食、外食、焼肉など充実した内容を盛り込んでいる。多くの利用者が下ごしらえ、調理、準備等に楽しみながら参加し、職員と会話を楽しみながら食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の健康状態を把握し、食事量・水分量は毎食記録し体調不良などで、食欲のない方には、代替品を提供し栄養を確保している。制限がある利用者様には、カロリー計算した食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし口腔ケアをして頂いてる。自分のできない方や上手にできない方には、お手伝いをしてる。また夜間帯は義歯洗浄を行い衛生保持に努めている。異常がみられた場合には歯科受診をするなど対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排尿パターンをチェック表で把握し声掛け誘導を行い少しでも失禁を減らせるよう心掛けている。声掛けや介助の際は自尊心を傷つけないよう配慮している。	パターン表などで排泄のタイミングを把握しており、利用者の合図、動作、表情などのサインを見逃さない様に努めている。声掛け誘導、歩行介助、衣類脱着介助などの補助動作で自尊心を傷つけない様配慮し、自立排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や野菜・乳製品を適度に摂って頂き自然排便に繋がるよう予防している。運動不足にも気をつけ、毎日ラジオ体操を行っている。必要に応じて主治医と連携を図り、個々に合った対応を心掛けている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	常に浴槽にはお湯を入れた状態になっており、個々のタイミングで自由に入浴して頂いている。曜日や時間の決まりは無くできるだけ希望に添った入浴が出来るよう努めている。又、個々の好む温度も把握しながら支援に努めている	入浴時間や曜日は利用者の希望に応じており、入浴時は同姓介助で入浴支援を行っている。車椅子利用者にはリフト式入浴装置を使用して2名介助で実践している。また、浴槽と洗い場は同時に3名までが入浴できる広さがある。入浴を嫌がる場合は強制せずに、原因を推察して取り除くように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が希望する時や、体調に合わせて休息をとって頂き個別のケアを行っている。トイレ誘導やオムツ交換の時間も睡眠を妨げないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬を理解し変更があった場合には全員に伝達し副作用や用法・用量の把握・把握に努めている。変化がみられた時は医師に相談し迅速な対応を心掛けている。		

グループホームのぞみの家 カエデ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵・カラオケ・ゲームなどで利用者様が笑いのある生活ができるよう努めている。それぞれの残存能力に合わせ役割を見つけたし、生活に充足感を持って頂けるように支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日帰りや一泊旅行に出掛けたり、市のお祭りなどにも毎年出掛け、季節の行事を楽しんで頂いている。敷地内にはプランター花を置き、散歩が楽しめるよう環境整備している。畑では野菜作りをして収穫を楽しんでいる。	敷地内外の散歩など日常的に外出している。施設敷地に畑や園芸コーナーが有り外気浴を兼ね、畑じり、草むしりなどで体を動かしている。また、年間計画を立て、お花見、ドライブ、外食、紅葉、一泊や日帰り旅行など家族を含めた外出の機会を作る様に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様には小額を所持して頂き、買い物などの支援ができるよう努めている。また、敷地内周辺の環境整備も行いながら散歩ができるよう工夫したり、地域のイベントなどには御家族様も参加され交流を図れるよう心掛け充実した生活が送れるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話を設置し、自由に使用できるようになっている。クリスマス前には、利用者様から御家族へ手作りのクリスマスカードを送っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度に気をつけ不快な思いをしない様心掛けている。また季節感のある飾り付けをしたりお茶やコーヒー等はいつでも気軽に飲めるよう配慮している。キッチン是对面式になっており日頃から生活感を感じて頂けるうに工夫している。	居間兼食堂は天井が高く、大きな窓からは十分な採光を取り入れており、大きなイベントを行うことが出来る広さがある。また、行事や季節に合わせた飾り付けや利用者の作品が展示されている。調理場のカウンターにはコーヒー、お茶、袋菓子などが常に置かれ利用者は自由に飲食できる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を設けたりソファの配置、個人が持って来た椅子など好きな場所で自由に寛げるようにし、馴染みの利用者同士交流を図れるよう配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が安心して過ごせるよう家具などの持ち込みは自由にしており、使い慣れた物・馴染みのある物・愛着のある物などで居心地の良い空間づくりをしている。使い慣れた物を置くことで、自分の居室だという認識が持てるよう配置などにも工夫している。	居室は8畳程度の広さが有り、掃除がよく行き届き清潔である。備品としてベッド、整理タンス、カーテン、温水パネルが備えつけられている。壁には写真や飾りつけがしてあり、利用者の特徴が見られる。利用者は自宅から仏壇などの馴染みの物を持ち込んで居心地の良い居室にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室等の場所に表札を付け、居間からでも認識できるようプレートを付けたりしている。車椅子でもゆったり通る事ができるよう、物の配置にも考慮し安全に生活できるよう配慮している。			